

がん治療に対する取り組み

シリーズ④ 外来化学療法センター

最先端の抗がん薬治療をご提供 ～患者さん・ご家族と共に最善なチーム医療を目指して～

本院外来化学療法センターは2006年4月に開設し12年目を迎えました。当センターでは、腫瘍内科医・専任看護師・がん専門薬剤師・メディカルスタッフが配置され、各診療科と連携し、安全で質の高いがん医療を目指してチーム医療に取り組んでいます。

当センターは、リクライニングチェア8台、ベッド14床を有し、年間延べ9,000人の患者さんのご利用があります。肺がん・大腸がん・乳がん・胃がん・前立腺がんをはじめさまざまながんの患者さんが自宅で日常・社会生活を送りながら、抗がん薬治療やがん免疫療法を受けておられます。また、新規抗がん薬の臨床試験（治験）にも積極的に取り組んでいます。

<医師の取り組み>

全てのがんの患者さんを対象にエビデンスに基づいた治療、支持療法を行います。適切に抗がん薬を用い副作用に対応することで、有効で安全な治療を患者さんに安心して受けていただくことを心がけています。

また、原発不明がんなど従来の臓器別診療では診療科がはっきりしなかったがんに対する治療も行います。臓器横断的に各種がんの患者さんの治療を行うばかりでなく、各専門診療科・部門と積極的にカンファレンスなどを行い、放射線治療、手術を併用した集学的治療を含めて、それぞれの患者さんに最適な治療を提供します。また最新のがんに関する知見を収集し、患者さん、ご家族、に提供します。

新しい治療法は、今までの治療よりも有効または安全であることが確認されて初めて標準治療として確立します。こうした状況を科学的かつ倫理的に調べる方法が臨床試験です。われわれは、新しい薬剤を開発す

る治験を含めご協力いただける患者さんには積極的に臨床試験を実施し、より良い治療開発を行うとともに、最新の治療を受けていただく機会を提供いたします。

<看護師の取り組み>

治療中、常に患者さんの傍らにいる看護師は、医師が処方した抗がん薬の点滴を安全に、確実に投与することはもちろんですが、抗がん薬治療中の患者さんや家族が安心してその人らしく日常生活が送れるようにサポートすることを大切にしています。抗がん薬治療にはさまざまな副作用があり、患者さんのライフスタイルに応じて副作用の対処方法について一緒に考え、抗がん薬治療中の不安な気持ちや揺れ動く心に気づき寄り添うよう努めています。そして、外来化学療法センター薬剤師と相互に情報共有を行い、患者さんご家族のサポートをしています。また、がんと診断された時から緩和ケアが始まると言われています。私たちは抗がん薬治療中から各診療科やがん相談支援センター、緩和ケアチームなど他部門との連携を図っています。抗がん薬治療中に心配なことなどがあれば、外来化学療法センターのスタッフへご相談ください。

<薬剤師の取り組み>

薬剤師は抗がん薬治療について、外来・入院ともに治療計画に基づき投与量、投与期間、休

薬期間、投与順序、投与経路、併用薬剤などを薬学的に確認し、処方監査、調剤を行っています。抗がん薬の調製には安全キャビネットと閉鎖式薬物混合システムを導入し、医療スタッフ・周辺環境の安全対策に取り組み、正確な調剤を行っています。

また、患者さんが外来化学療法センターで治療を受けている際に患者さんのもとへ伺い、治療中の心配な症状の確認やその対処法の説明を行っています。がん治療で使用する薬剤と、患者さんが使用している薬や健康食品などの相互作用の確認なども行っています。がんサポート外来では、がん専門薬剤師がお薬の説明や副作用の確認などを外来化学療法センター内の診察室で行っており、がん治療のサポートを行っています。

文責 後藤昌弘、有田由美、後藤愛実



タバコがやめられない患者さまへ 禁煙外来をお勧めします！

総合診療科 鈴木富雄

総合診療科では循環器内科、呼吸器内科、消化器内科の先生方の協力を得て、毎月奇数週（第1、第3土曜日）に禁煙外来を行っております。糖尿病や高脂血症などの生活習慣病、喘息や肺気腫などの肺疾患、狭心症や高血圧などの循環器疾患を患っている方々や、外科での手術を予定されており術前から禁煙が必要な方々など、禁煙が必要な患者さまはたくさんおられます。

しかしながら、長年毎日煙草を吸っている方々にとって、医師から「禁煙してください」と言われても、ご自分の努力だけで禁煙を実行できる方は多くはありません。

禁煙外来では禁煙補助薬を使い、12週間のプログラムで比較的容易に禁煙を達成することができます。禁煙外来の受診を希望する方は、現在通院している各診療科の主治医にご相談ください。主治医から当外来に紹介していただくかたちで、禁煙外来の診療が開始されます。ぜひ、皆さま方の健康のために、一緒に禁煙を実行しましょう。

禁煙外来の保険適応の対象は、以下の①～④を満たす方々です。

- ① ニコチン依存症の判定テスト(TDS)が5点以上
(右記の判定テストを試してみてください)
- ② 1日の平均喫煙本数×これまでの喫煙年数=200以上
(34歳以下の方は200未満でもOKです)
- ③ ただちに禁煙を始めたいと思っている
- ④ 禁煙治療を受けることに文書で同意している
(当外来で署名していただきます)

ニコチン依存症判定テスト(TDS)

1問1点で合計点を出してください。

- 問1 自分が吸うつもりよりも、ずっと多くタバコを吸ってしまうことがあった。
- 問2 禁煙や本数を減らそうと試みて、できなかったことがあった。
- 問3 禁煙したり本数を減らそうとしたときに、タバコが欲しくてたまらなくなることがあった。
- 問4 禁煙したり本数を減らしたときに、以下の症状があった(イライラ、神経質、落ちつかない、集中しにくい、ゆううつ、頭痛、眠気、胃のむかつき、脈が遅い、手のふるえ、食欲または体重増加)
- 問5 問4での症状を消すために、またタバコを吸い始めることがあった。
- 問6 重い病気になったときに、タバコはよくないとわかっているのに吸うことがあった。
- 問7 タバコで自分に健康問題が起きているとわかっているのに、吸うことがあった。
- 問8 タバコで自分に精神的問題が起きているとわかっているのに、吸うことがあった。
- 問9 自分はタバコに依存していると感じることがあった。
- 問10 タバコが吸えないような仕事やつきあいを、避けることが何度かあった。

市民公開講座

平成30年5月19日開催

“早く元気に!”を栄養で支える
～当院での栄養サポートチーム(NST)の取り組み～

栄養サポートチーム (NST)
内科学 I 教室 糖尿病代謝・内分泌内科助教 金網 規夫



栄養サポートチーム (NST) とは

栄養管理はすべての疾患治療に共通する最も基本的な医療です。栄養不良の入院患者さんの数は多く、適切な栄養管理を行うことで治療効果が良くなったり入院期間が短くなったりすることが期待されます。しかし、適切な栄養管理がなされないことは大きなリスクであり、いかなる治療もその効力を失います。栄養サポートチーム (nutrition support team: NST) は、異なる職種の特任家が連携して、患者さんそれぞれに適した栄養を提供することを目的として活動しているチームです。

大阪医科大学附属病院での取り組み

本院の栄養サポートチームは、医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、言語聴覚士、理学療法士、歯科医師、歯科衛生士が互いの知識や技術を持ち寄り、患者さんに最善の医療を提供できるように日々がんばっています(図)。栄養サポートチームの業務は、1) 栄養アセスメントと2) 栄養療法の提案です。栄養アセスメントではすべての入院患者さんの栄養状態がチェックされますが、栄養状態に問題のある患者さんがおられれば、栄養サポートチームがさらに詳しく評価し、栄養アセスメントに基づいて、その患者さんに最適と考えられる栄養療法を主治医に提案します。具体的には患者さんの身長や体重、全身状態を考慮しながら、必要な栄養の投与量、種類、投与経路を、患者さんのお話や希望を伺いながら検討します。そして、毎週患者さんにお会いして提案した栄養療法がその患者さんにとって最適であったかどうかを繰り返し検討します。

本院栄養サポートチームでは縁の下力持ちとして、患者さんに「元気」という栄養をたくさんとっていただくように、多職種のスタッフが力を合わせて日々奮闘しています。

大阪医科大学附属病院 栄養サポートチーム



薬剤師による外来患者指導について

病院薬剤部 鈴木 薫

◆手術の前に中止すべき医薬品・健康食品の確認

本院では、年間10,000件以上の手術が行われていますが、安全に手術を受けていただくために、手術前に抗血栓薬の服用を中止していただく場合があります(一部の眼科領域の手術や小手術を除く)。抗血栓薬には抗血小板薬(商品名:エバデール、バイアスピリン、バファリン、パナルジン、プラビックス等)や抗凝固薬(商品名:プラザキサ、ワーファリン等)が含まれますが、薬剤によって必要な休薬期間が異なり、休薬せずに手術を行った場合、出血のリスクが高まることになります。また、一部の健康食品やサプリメントにも抗血栓作用をもつ成分が含まれているので注意が必要です。

◆入院時の持参薬確認

本院では、原則として入院時に薬剤師が病棟で服用中の薬剤(持参薬)の内容を確認していますが、入院から手術までの期間が短い場合や休日に入院する場合など、外来診察時に医療スタッフが必要と判断した場合は「薬剤部のおくすり相談コーナー(16番窓口)」で、お薬を確認しています。入院前に薬剤部で持参薬の確認など「外来患者指導」を受けるように説明された際は、服用中の薬剤が把握できる資料(おくすり手帳・おくすり説明書など)だけでなく、健康食品やサプリメントの資料も併せて持参していただきますよう、ご協力をよろしくお願いいたします。

なお、服用を中止することにより悪影響を及ぼす危険性もあることから、抗血栓薬の服用を中止できない病態や緊急手術の場合は、休薬せずに手術を行う場合があることをご了承ください。

無料シャトルバスのご案内

運行日:月曜日～金曜日

※土曜・日曜・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)・本学創立記念日(6月1日)は運休します。

- 道路状況、天候により、遅れが生じる場合があります。
- 運行ルート途中での乗り降りにはできません。また、当院にご用のない方はご乗車になれません。
- 車内での携帯電話の通話、ご飲食は他の方のご迷惑となりますのでご遠慮ください。
- 車内は禁煙です。

運行時刻表 (ご乗車の際は、行き先にご注意ください)

大阪医科大学病院～JR高槻駅・健康科学クリニック					
	JR高槻駅発			大阪医大発	
8	20	35	50	30	45
9	05	20	40	00	15 35 55
10	00	20	40	15	35 55
11	00	20	40	15	35 55
12	00	20	40	15	35 55
13	00	20	40	15	35 55
14	00	20	40	15	35 55
15	00	20	40	15	35 55
16	00	20		15	35
17					

●付添いの方、お見舞いの方でも無料でご乗車になれます。
(お身体の不自由な方は付添いの方と一緒に乗車ください。)

2018.4.2 改定

大阪医科大学病院～大阪医科大学三島南病院			
	三島南病院発		大阪医大発
8			
9		00	
10		30	00
11		30	00
12		30	00
13		30	00
14		30	00
15		30	00
16		30	00
17			00

●乗車定員は9名です。
なお満員のときは次の乗客をご利用ください。
●車椅子はご利用になれません。

2016.9.1 改定

看護スペシャリスト
専門看護師・認定看護師の活動

Part 15



慢性経過をたどる患者さんの療養生活に寄り添えるように

慢性疾患看護専門看護師／摂食・嚥下障害看護認定看護師
檀上 明美

生活習慣が関与する慢性疾患をもつ患者さん、とくに脳血管疾患(脳梗塞など)の患者さんに対して脳血管疾患の看護外来を立ち上げ、再発予防のための療養生活のサポート、セルフマネジメントを支援する取り組みを行っています。また、脳血管疾患発症後に障害が残った場合は、障害とともに慢性経過を歩むことになります。障害の中でも、とくに食べたり飲み込んだりする機能に障害を伴う、摂食・嚥下障害を伴った患者さんとその家族が、障害とともにその人の質を高めたりなど、からだと心の健康を保つうえでも重要な役割があります。そのため、食べられなくなるということは大きな不安を伴うことになります。したがって「今、何が起きているのか」「今後、どのようなプロセスを踏むのか」「今、必要なことは何か」をわかりやすく説明し、不安が軽減するよう心がけています。また、院内の栄養サポートチーム(NST)のメンバーとしても活動を行っており、食べることが困難になった患者さんの生活と治療を栄養面からもサポートしています。慢性経過をたどる患者さんの療養生活に寄り添いQOLを少しでも高められるように、関連するスタッフたちと連携し活動しています。

病院ボランティアの活動紹介

“浜ちゃんのバルーンアート”
小児病棟がバルーンでいっぱい♡

4月19日にバルーンアートボランティアの浜ちゃんがたくさんのバルーン作品を持って小児病棟に来てくれました。プレイルームには子どもたち手作りのポスターが飾ってあり、歓迎ムードいっぱいでした。

まずは、剣やウサギ・カエルを子どもたちの好きな色で、目の前で作ってくれました。風船が一気に膨らみ、浜ちゃんの手によりいろいろな形にねじられてできあがります。心待ちにしていたイベントにみんながワクワクです。「風船つり」ではひもを引っ張り、バルーンをつり当てます。お母さん方も笑顔で参加しました。その後、個室の子どもたちのリクエストに応じて順番にお部屋を回り、たくさんのバルーンを作ってくれました。「インスタ映える写真を撮ろう」では、バルーンで飾られたフレームをプレイルームにプレゼント。風船ペロペロキャンディーを持って記念撮影ができました。病棟が楽しい笑い声に包まれ、お母さんや病棟関係者も笑顔になった一時でした。

浜ちゃんは、本院ボランティアグループ「ふれあい」で活動中です。



情報コーナー

PET-CT検査装置移設のお知らせ



関西 BNCT 共同医療センター外観



関西 BNCT 共同医療センター PET-CT 検査室

中央放射線部 石浦基文

今年度より関西 BNCT 共同医療センター内でPET用検査薬品(FDG)製造が開始されるに伴い、本院で運用しておりましたPET-CT検査装置を関西 BNCT 共同医療センターに移設し、平成30年6月4日(月)から運営を開始します。

つきまして、PET-CT検査予約日が平成30年6月4日以降の患者さんは、予約票の案内図をご確認のうえ、関西 BNCT 共同医療センター内受付に直接お越しください。

